

プロ選手と楽しく交流

姫路聴覚特別支援学校でバスケット指導

3人制バスケットボール大会「3×3. E X P R E S S」のリーグ戦が7月19日に

大手前公園(姫路市)で開催された。大会の機運を醸成するため、本大会に出場した県内外となる3人制バスケットボールプロチーム「E P I C. E X P」(エピック・ドット・エグゼ)の選手らが、7月10日と11日の2日間、雨天時の倉庫となる姫路聴覚特別支援学校(姫路市)を訪れ、生徒たちと交流会を行った。

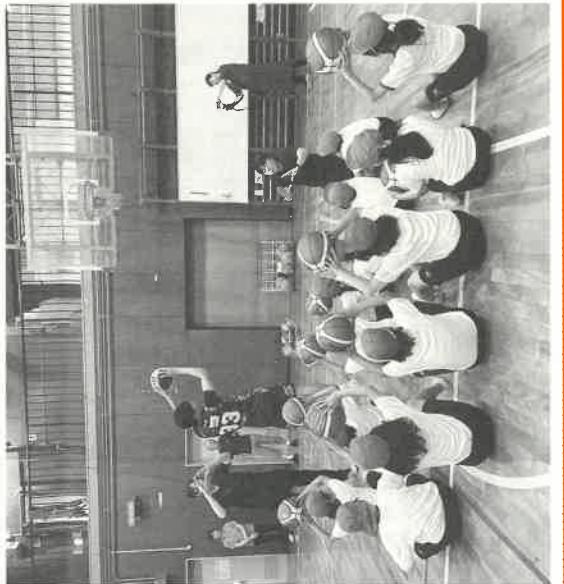
10日は澤本和毅選手とフリオ・デ・アンス選手が同校を訪問。小学校の生徒24名が参加した。交流会では仕事をしながら競技を続け、充実した日々を過ごす選手たちの思いを伝える講義のほか、ハンドリングやシュートなどプロのテクニックを披露するご苦労が上がった。その後も

ボールを使ったゲームやドリブルをしながらタッチシュートをするなど楽しく交流した。選手からシートのコツを教わると次第に入るようになり、シート効果は大いに盛り上がった。子どもたちにはバスケットボールを楽しむ機会が多かった。子どもたちに

贈られた。

また、今回の交流をきっかけに子どもたちにバスケットボールに興味を持ち楽しんでもらいたいと、同校へボールの寄贈が行われた。

(担当:県民生活部文化スポーツ局スポーツ振興課)



災害時の外国人県民支援議論 兵庫県外国人県民共生会議

7月14日、国際性豊かな地域として発展してきた兵庫県は、共に理解し、共に文脈多文化共生社会を一層推進するため、外国人県民団体等と意見交換を行う、兵庫県外国人県民共生会議を県庁2号館5階会議室で開催した。

参加したのは齋藤知事、兵庫県市長会酒井会長、兵庫県町村会議連合会長と外国人団体・外国人支援団体から10名(計25名)。

兵庫県内には2024年未時点で約14万2千人の外国人県民が生活している。外国人県民が生活しており、全国で7番目に多く、近年は国籍の多様化や地域分散化が進んでいく。

外国人県民に対する行政の政策は、国所管と自治体が中心となって担当するものの大半(2つ)に分類されている。国は入国及び在留に関するルールの順守を自治体が中心となるって担当するのは、多文化共生(外国人を含む全ての県民が互いの文

化や伝統を認め合い、共生できる社会の構築を目指す)である。

齋藤知事はあいさつで「兵庫県では地域の美情に応じた官民的な課題解説に重きを置いた『多文化共生ネットワーク会議』を各地域で開催するなど、日本人県民と外国人県民が共に暮らす社会づくりを進めている。本会議は外国人県民が抱える様々な課題に対する対応策を検討する場であり、阪神・淡路大震災から30年の節目を迎えるに

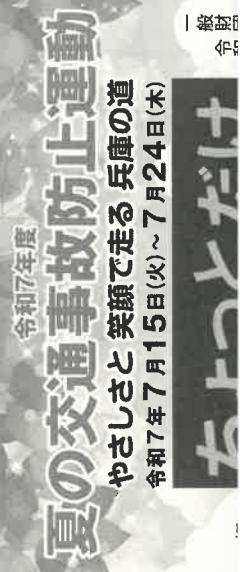
あたり『災害時の外国人県民の安全と安心』をテーマに議論を行う」と述べた。

(担当:産業労働部国際局国際課)



夏の交通 兵庫県

夏の時期は、休暇により交通渋滞が発生する事に加えて、日本中暑を避けて朝夕に活動する高齢者や夏休みに外で活動する子どもが



外交の視点から国際理解深めるー

外務省職員が姫路飾西高で講演

令和7年度 夏の交通事故防止運動

令和7年7月15日(火)~7月24日(木)

